

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200569		
法人名	有限会社和		
事業所名	グループホーム和		
所在地	士別市東1条2丁目440番地		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和5年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173200569-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 6 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・その人の人生を尊重し支援致します。 ・その人らしく生活出来る様に支援いたします。 ・健康で安心出来る様に支援いたします。 ・御家族、地域との関わりを大切にいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りの駅やバス停から徒歩圏内にあり、市の中心街に位置しています。今年度は運営の改革があり、閉鎖した2号棟に1号棟が移転しています。利用者は職員の支援で徐々に落ち着きを取り戻しつつあります。運営推進会議は感染症予防対策を講じて敷地内の本社事務所を会場とし、関係者の参加のもと開催しており、課題であった自治会と協力体制である自主防災組織を立ち上げています。年3回の防災訓練の他に利用者の不意の外出に備え、年1回捜索訓練を実施し非常時に備えています。利用者の高齢化もあり全員での外出は困難ですが、花見会では職員が日本舞踊の「さくら さくら」を披露、端午の節句では金太郎や鯉のぼり、熊に扮装した職員による寸劇で利用者から「わあ、すごい」との言葉が出るなど、次々と楽しめる企画を打ち出しています。管理者から「うちの職員は優しい心根の持ち主ばかりで気になるところは見つからない」との言葉があり、職員への信頼がうかがえます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の、目につくところに理念を掲示している。読み上げは行っていないが、意識し実践につなげている。	「和心場所で その人の力を大切に あたりまえの生活をともに生きる」を理念とし、新人研修ではケアの指針であることを説明しています。特に「あたりまえの生活」を重視しており、事案が発生したときは理念に立ち返ることとしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	推進委員会では地域の代表者に出席してもらい、事業内容を把握して頂き、地域で催しがあれば参加している。	地域とは徐々にコロナ禍以前の交流に戻りつつあり、看護学生による実習時は、利用者が笑顔になる場面になっています。神社祭では10名程の利用者が神輿行列を見物後に屋台に出かけ、敬老の日には自治会から贈り物が届いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、そういう機会がなく行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催し、市の職員、自治会長、家族様を招き、サービス状況や事業での取組みについて報告し、意見やサービス向上に活かしている。	会議は本社事務所で開催し、自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員、家族の参加を得ています。利用者状況、活動内容のほか、その時々で年4回の和新聞や資料を添付したり、感染症への取組、運営上の課題等を報告後にメンバーと意見や情報を交換しています。	地域関係者からは活発な意見が出ていますが、他の参加者の発言は少ないように感じられます。運営の質向上に繋がる意見の引き出しに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に招き、ホームのサービス状況を把握してもらい、問題点や実情を共有している。	良好な運営維持に必要な不可欠である行政とは施設長と管理者が各案件を担当し、それぞれの担当部署と信頼関係の構築に努めています。コロナ感染症関連の情報を共有し、コロナ禍を乗り切っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に1度開催している運営推進会議にて、身体拘束に当たる事例の検証を行い、会社全体で身体拘束をしないケアへの取組みを実践している。	年6回の運営推進会議時に身体拘束等適正化委員会を同時に開催して、事例がないことを報告しています。年2回の研修会はこれからですが、申し送り時等で折々に拘束に当たる具体例を確認しています。状況により玄関を施錠していますが、利用者は自由に出入りができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回以上の勉強会を心がけ、管理者が軸となってカンファレンスを行っている。また、日常的に虐待とならないように、職員同士注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば参加したい。当ユニットで利用している入居者が居て、職員間への周知はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族と時間にゆとりを持って説明する機会を設けている。理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望や意見があれば、気軽に電話連絡してほしいことを毎月のお手紙に記し、話しやすい雰囲気作り心がけている。今のところ意見等は承った事がないが、あれば運営に反映させる。	家族には電話や毎月個別の手紙、3か月ごとに写真を掲載した「和新聞」によって利用者の様子が明瞭に分かるよう工夫して届けています。利用者や家族から運営上の意見は表出されていませんが、常に耳を傾ける姿勢を基本としています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の何気ない会話から、会社への意見や提案を聞き取るようにしている。そのなかで、問題点を運営に相談、反映出来る事は実行してもらっている。	職員は、利用者との関わりで気付いたことなどを常に上司に伝えており、内容によっては、管理者が代表者や施設長の指示を仰いでいます。職員は自己研鑽に努め、利用者があたりまえの生活ができる環境作りに取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	国の定める介護報酬が低いため、代表者が整備に努めても、中々介護職を選ぶ人が増えない。ある意味、ホスピタル要素のある現場である。介護者への要求は年々高まるが、待遇は低いままとなっているのが現状。改善される事に希望を		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格で就職しても、職場の先輩が現場で直に介護を教えながら共に成長していくスタイル。機会が来たら、資格を取るよう研修を受けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今のところその機会はない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は関わりを特に多く持つように努め、本人との信頼関係を築けるよう接する。そのなかで、本人の気持ちを聞き取るよう務める。本人の安心して話せる雰囲気作り、信頼される態度となるよう心がける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望時より、面談を行い家族の気持ちを聞き取るように努めている。話し合う機会を幾度か設け、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との話を聴きとり、何が必要で要望は何かを見極めている。また、どのようなサービスが出来るのか、詳細に伝えている。外部のサービスについても説明し、セカンドオピニオンの必要性等にも言及している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人は、介護される一方の位置ではなく、時には人生の先輩、時には私のおばあちゃん(おじいちゃん)一緒に過ごす仲間、家族、として温かい関係を築きながら、お世話をさせてもらう態度にぬくもりを感じられるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との距離感を考える時に、入居者とは家族となり何でも話せる間柄であるなら、その家族とも信頼関係を作り、共に本人を支えていく関係を築くことが必要。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が望むなら、馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援していく。忘れてしまい、ホームが馴染みの場所に変換されていく事も多い。	現在、面会は感染症予防対策の上、居室で行われています。また、手紙や電話への取り次ぎなどで家族との関係性を大事にしています。利用者の心身の状態により馴染みの場所への外出希望はなく、事業所や職員が馴染みの関係になっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々共同生活を送っている中で、利用者同士の関係性を見て、都合の良い席の配置、喧嘩にならないように仲を取り持つ、笑い合えるようにレクリエーションを行って慣れ合える雰囲気作りを努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どこかで家族に出会えば、挨拶をしている。時に昔話をしたり、「私もはいりたいんだわ」と相談を受けている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にできなかつたり、妄想の中に生きている入居者もいるが、本人が安楽に生活出来るように、あたたかい介助を受けられるようにと、検討している。	職員は、利用者がだるそうにしていたり、眠そうな仕草等が見られる場合には、いち早く察知して一日のスケジュールに捉われることなく柔軟に対応しています。利用者が自然体で居られる支援に取り組み、時にはケアプランに反映させています。	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初の家族への聞き取り、担当ケアマネージャーとの会話から、生活歴や暮らし方、生活環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、健康状態を把握し機能を落とさないように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活、その人の状況をモニタリングし、現状に即した柔軟な介護計画を作成している。	暮らしのアセスメントシートには、起床時間や食量など生活の詳細な様子と利用者の行動や状態、訴え、ケアプランの支援目標のチェック欄等が設けられています。ケアプランは、利用者を主体とした支援目標の策定に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの記録を記入している。日々その人に合った見直しの支援をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の体調変化、認知症の進行、心境変化によって日々本人の変わる状況に、柔軟に合わせた支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は近隣市町村の看護学生が実習に来設され、若く元気な学生と笑顔で談笑される姿がほほえましかった。また、避難訓練等地元の消防署との連携も図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の医療機関にて、適切な医療を受けられるように支援している。病状によって遠方へ出向く場合もある。	入居時に希望の受診先を聞いています。外来受診の殆どは職員が同行支援を行い、受診時の情報は家族に伝えています。協力医によるコロナワクチン予防接種や看護職員への相談や指示を得て、体調変化時に対応しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調異変時に看護師に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の既往歴、添書を提出し、退院時には病院側より看護要約を受け取り退院後のアドバイスを頂くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化、終末期に向けた方針を家族と話し合っている。事業所で出来る事を理解して頂いている。	入居時にも利用者や家族に説明をして同意を得ていますが、医療体制が整わず終末期支援は不可能な状況下にあります。職員は、利用者が経口摂取できるまでは事業所で生活できるよう、さらなる心身の寄り添いに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、利用者の現状をふまえたような時も急変がありえる事は職員間に伝達している。また、年に1回救急救命講習を全員で受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回の防災訓練を実施している。地域との協力としては、前回外部評価でも指摘があった為、推進会議で検討をお願いした。今年じゅうに自主防災組織の立ち上げが予定され、期待している。	消防士や設備業者の立会いの下、2ユニット合同で日中に地震後の火災発生を想定した避難訓練を行っています。消火器を使った訓練も行い、最後に訓練に対する評価をもらい、課題は次回の訓練で解決できるよう努めています。	事業所はダムが決壊すると水没する危険区域にありますので、地域の自主防災組織とのさらなる連携強化の取り組みと、今後、夜間時の火災や水害等を想定した訓練を2回実施する計画ですので、その実行にも期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室になっており、個人のプライベートな時間を持てるようになってきている。また、言葉には気を付けるようにし、誇りを傷つける事のないように相手の立場に立てるよう努めている。	職員は内部研修で適切な接遇マナーを学び、常に優しい声かけをするなど実践に努めています。居室にトイレを設えており、個人の生活空間を大事にし、また、個人情報の取り扱いにも十分配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉の中々出ない方でも、「どうしたいですか？」とゆっくり尋ねたり、考える余裕を持てる対話を心がけると自己決定に繋がるが増えた。目の動きや表情で表す方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	おおまかなホームの流れはあるが、一人ひとりの自由を優先し、日常をどのように過ごすかは個人の体調や気持ちに任せている。表出出来ない時は、察するよう努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームは、個室以外は社会と考え、恥ずかしくなく過ごせるように、食べこぼしや色あせたり、毛玉だらけになるまえに家族と相談して服を持ってきて頂いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の食べる力を大切にし、いつまでも味わいを持って楽しく食事が出来る様に工夫している。刻み、トロミ、ミキサー等。また、お手伝い出来る方にはお願いし、出来る力を発揮してもらっている。	ユニット共有の献立に、時にはアレンジを加え利用者の食欲を満たしています。誕生日は要望を取り入れ、季節の行事では生ちらし寿司など特別食を用意しています。行事のない月は「和喫茶」を開店し、たこ焼きなどを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力で摂取出来ない方は、一日の必要量を介助にて摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて、口腔ケアを促したり介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの身体、心身の状態に合わせて排泄支援をしている。認知症の進行程度によっても、排泄支援は大きく変わる。	居室にトイレがあることで失敗が軽減されています。転倒しないようトイレまでの動線を確保したり、時間を見計らって声かけや誘導を行っています。衛生用品の必要時は、利用者や家族と相談して使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	センノシドから、重カマへと薬を変更していき、より自然な排便に近づけるよう支援している途中である。水分も増やせれば排便は出やすいが、本人の飲みたい気持ちが無ければ繋がらない。牛乳や、おやつにヨーグルトを提供。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングでの入浴は、ホームでは難しい。温泉のように、いつでも好きな時に入浴出来たら素晴らしい事かと思う。ホームでは、人員の可能な日を入浴日とし、重度の方が多いため2名体制で実施している。	毎日入浴できる用意はしていますが、入浴回数や湯加減など利用者の要望には柔軟に対応し、週2～3回を目安に午前中に支援しています。シャワー浴の時も脱衣所や浴室の温度に配慮し、足湯をしながら保清に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて、就寝されている。個室で、寝心地良く整えられた寝具により気持ちよさそうに休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、本人に代わって医師から内服薬への説明を受けている。内服に変化があればすぐに全職員に伝達出来る。服薬ミスを防ぐためのWチェック、服薬直前の他職員への確認をしている。症状の変化があれば、医師に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇には、テレビを見る、カラオケDVDで一緒に歌う、パズルをする、職員と散歩に行く、職員とお喋り、等思い思いに過ごされる。ほとんどの入居者が自分で思いつく事が少なく、暇そうにされているときは、職員が提案する事も多い。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気が良ければ、ホームの周辺を散歩している。また、ドライブに誘ったり、家族に連れられて自宅へ出掛ける方もいる。	日常的な外出は、敷地内の散歩、外来受診、ドライブで紅葉や田園風景を眺め、神社祭では神輿を見物後に屋台を見て回っています。外出に代えて室内でのお花見会、端午の節句、和喫茶等を企画して、生活にメリハリをつけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、認知症の有無で大きく意味が変わる。当ホームでは、ほとんどの方が認知症を患い、お金の所持を認めていた頃にはお金を色々なところに置かれ、騒ぎが絶えなかった。現在は、本人所持はせず、預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言われた時は、家族へ取り次いでいる。また、家族から電話が来たときには本人に取次、支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこでも居心地が良いように、見慣れた風景を大切にし、本人の居場所を作る様にしている。壁飾りは季節で変化させ、「綺麗だね、今は夏かい？」等の言葉が出る。掴まるころを多めに作り、転倒防止にも努めている。	利用者は、日中リビングで過ごすことが多く、クーラーや空気清浄機を用意して心地良い生活環境になるよう努めています。クリスマスツリーなど季節飾りで四季の移り変わりが感じられるよう、職員のアイデアが活かされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのある共有スペースでは、それぞれが自分の好きな場所があり、落ち着かれています。他者に興味を示さない方が多いが、仲良しコンビで行動する方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の馴染の物が置かれ、懐かしい家族の写真が飾られたり、ホームでの思い出が飾られ、居心地よく整えられている。	7.5畳ある居室にはクローゼットや冷蔵庫、物干しポール、トイレを設置しており、利便性ある設えになっています。扇風機や加湿器、家族写真や趣味の物等を持ち込み、入居以前の環境を作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが付けられ、片手で安心感を持ちながら歩行される方も多い。廊下に貼られた展示物を見て、「私がいる、トキちゃんもいる」と喜んでくれる方もいる。自分の居室がわからなくなる方のために、造花で目印を付けると喜ばれていた。		